

## 景観省エネ住宅チェックシート

景観をつくり育てる取組として、良好な町並みの形成を進めるとともに、地域の気候風土に適応した住宅の普及を図るため、建築費用の負担が大きい取組に対して助成支援を行う。

日本瓦や自然素材の使用、深い軒や日射制御といった景観形成に寄与する要素は、同時に住宅の温熱環境の改善やエネルギー消費の抑制にもつながることから、本制度ではこれらの取組を「景観省エネ住宅」として位置づける。

各助成基準を満たして住宅や外構等を整備する場合には、その費用の一部を助成するものとし、助成基準の内容については下記に示すとおりとする。

	内容	チェック
本チェックシートにおいて、赤色の項目は必須条件とし、水色の項目は該当設備を設置する場合の必須条件とする。その他の項目については、該当数に応じて助成金額を段階的に加算する。		
屋根	色彩は無彩色を基本とし、マンセル値 N6.5 以下とする	<input type="checkbox"/>
	全面道路に対して平入りの屋根形状とする	<input type="checkbox"/>
	切妻・寄棟・入母屋のいずれかとする	<input type="checkbox"/>
	勾配は 4/10 ～ 6/10 の範囲とする	<input type="checkbox"/>
	屋根材には日本瓦を使用する	<input type="checkbox"/>
外壁 (公道から見える面)	色彩は白・灰・茶系を基調とし、マンセル値で彩度 4 以下を目安とする (自然素材そのものの色はこの限りではない)	<input type="checkbox"/>
	使用する色数は最小限に抑え、概ね 3 色程度とする (複数を色を用いる場合は、色相・明度・彩度による強い対比が生じないように配慮する)	<input type="checkbox"/>
	現在の町並みが形成する壁面線との連続性を保つこと	<input type="checkbox"/>
	木材・土・漆喰などの自然素材を用いる	<input type="checkbox"/>
開口部 (公道から見える面)	木製建具を使用する	<input type="checkbox"/>
	格子や簾などを設置する	<input type="checkbox"/>
設備 (公道から見える面)	太陽光パネルは屋根の色調と調和させ、彩度・明度の高い色は使用しない	<input type="checkbox"/>
	室外機や屋上設備は、通常視認される位置に露出させない (やむを得ない場合は、木製格子等、和風の囲いを設けるなどして目隠しするか、茶色等に着色し、町並みに調和させる)	<input type="checkbox"/>
外構(軒)	前面の公道に面する建築物の1階部分に設ける	<input type="checkbox"/>
	現在の町並みの壁面線、軒線等と連続性を持たせる	<input type="checkbox"/>
	素材・デザインは周囲の町並みに調和するものとする	<input type="checkbox"/>
	高さ・長さなども周辺との連続性を考慮する	<input type="checkbox"/>
	日本瓦を使用する	<input type="checkbox"/>
	軒の出600mm以上とする	<input type="checkbox"/>
外構 (門、塀、生垣)	駐車スペースを壁面後退により設ける場合や1階部分に設ける場合は、道路側に門・塀・生垣等を設置する	<input type="checkbox"/>
	現在のまちなみの壁面線や生垣等と連続性を持たせる	<input type="checkbox"/>
	門は木製瓦屋根、または石柱のものとする	<input type="checkbox"/>
	塀は土塀、板塀、石垣を用いる	<input type="checkbox"/>
	生垣は葉が触れ合う程度の密度で列植する	<input type="checkbox"/>
	緑の量は、葉が触れ合う程度	<input type="checkbox"/>
	在来種を使用する	<input type="checkbox"/>
給湯設備については、景観省エネ住宅の加算項目とは別に、設置する設備の種類に応じて助成金額を定めるものとする		
給湯設備	エコキュート	<input type="checkbox"/>
	ハイブリッド給湯機	<input type="checkbox"/>
	エネファーム	<input type="checkbox"/>